

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀県立嬉野高等学校
1 前年度 評価結果の概要	嬉野高等学校は「塩田校舎」と「嬉野校舎」からなる校舎制をとっていることから、校舎制の強みを活かして地域から必要とされる学校づくりを目指している。両校舎ともに今までの教育活動における成果は出ているが、さらに両校舎生徒・職員の結束を強めつつ、協力体制をとることで、「地域に必要とされる高校」としての課題を解決していくことが必須である。
2 学校教育目標	校訓である「躍動」「謙虚」「敬愛」の精神のもと、それぞれの専門学習領域の強みを活かした教育活動を総合的に展開し、これからの社会で生き抜くために必要な学力と敬う心を育み、志を持って地域と社会に貢献できる広い視野と専門性を持った産業人を育成する唯一無二の学校づくりを目指す。
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 「校舎制」のメリットの最大化を通して、中学生および保護者から選ばれる学校づくりを目指す。 生徒の個性・特性に応じた学習指導および生活指導を実施する。また、地域社会に貢献する高い専門性を有する生徒を育成する。 生徒の社会的自立に向け、主体的に学力、資格、専門的な技能や高い学力を身につけさせる。 社会的自立に向けた人間関係力の育成のため、「両校舎 合同行事」の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○「わかる授業」の実施	○家庭学習時間の調査・呼びかけを行い、毎日の家庭学習の充実を目指す。 ○小テスト(10点満点)を年間を通して実施し、クラス平均点が「7点以上 70%」を目指す(塩田)。 ○小テスト(10点満点)を年間を通して実施し、クラス平均点が「14点以上 70%」を目指す(嬉野)。 ○Formsを利用した授業アンケートにより、わかる授業実施率「80%以上」を目指す。	・定期的な家庭学習の記録調査を実施する。 ・小テスト、新テストの前・事前課題を準備し、生徒の自宅学習を行う時間確保を図る。 ・わかる授業の実践のため、教師の日々の授業の工夫と改善に努める。 ・わかる授業の実践のため、Formsを利用したアンケートをもとに教師の日々の授業の工夫と改善に努める。	A	・小テストの全年平均点は国語61点、数学5.6点、社会0点、英語12.0点と目標値に達した。新テストの全年平均は国語14.9点、数学15.8点、英語16.9点と目標値に達した。しかし、家庭学習が定着している人とそうでない人の差があると思われる。 ・今年度から、教師がお互いの授業を参観しやすするために授業参観シートを作成し気づきや感想、アドバイス等を記入してもらい授業改善に繋げたい。 ・11月に実施した授業アンケートは役に立ち力がつけ授業と関係した生徒が90%であった。	A	・具体的な設定された「数値目標」はクリアできており、家庭学習が定着できていると思われる。 ・「授業評価アンケート」についても、評価の上では「役に立つ」授業が実践されている。	教務主任(両) 学年主任(両)
	◎探求心の向上	○専門教科で資格取得指導を行い、前年度合格率の「100%」をめざす。	・各専門教科で積極的に資格取得指導に努めて対応した。 ・昨年度を振り返り、教科・課題を共有し、指導を行う。	B	・取組後補習や実践系の自主練習等にも時間をかけた対応した。 ・広く受験を呼びかけ、資格取得増に繋げることができた。	B	・正規の授業時間以外にも追加授業(補講など)を行うことで、力を付けている生徒がいる。 ・そのことによる資格取得増につながった。今後とも資格取得に向け、一層努力してもらいたい。	各科・各系列主任(両)
	○ICT機器を活用した授業の実施	○電子黒板・学習用パソコンの教育活動における活用率「70%以上」を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・「授業地帯や感染症などへの対応のために」「リモート授業」の実践に取り組む。	A	・生徒に貸与された「学習用PC」のHDD容量が不足し、アップデートに対応できないなどの事例が出たものの、オンライン・オンデマンド形式の授業実践や、アンケート回答時のForms利用など、ICT機器の活用が広がった。 ・授業時の解答や実験データの回収時のForms活用でデータ分析等の生徒へのフィードバックに活用できた。	A	・ICT機器利活用の成果が表れており、Formsの活用により、生徒たちの実態把握がより詳細にできるようになった。次年度への問題解決につなげていきたい。	ICT担当(両)
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員「90%」を目指す。	・人権・同和教育講演会を実施する。 ・「情報」/HR活動において「情報モラル教育、道徳教育、人権教育」を実施する。	A	・6～7月に1・2年生を対象に情報モラル教育(人権学習)、3年生を対象に道徳保障ホームルームを実施した。また、11月に生徒・教職員を対象に人権・同和教育講演会を実施し、価値観の違いや外国人の人権について考えることができた。	A	・生徒に対する「情報モラル教育」や「道徳保障HR」などの実施、教職員に対する「人権・同和教育」の実施が、教員の高い人権意識の高揚に役立った。	人権・同和担当(両)
	●いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組の充実	●法によるいじめの正確かつ積極的な認知及び適切な対応の「100%」を目指す。	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルを見直し、全職員に周知する。 ・いじめの対応等についての研修・会議を「年3回」以上行う。	A	・定期的なアンケートの実施(3回)により早期の認知・認知につながり、迅速な対策会議の実施で生徒の気持ちに寄り添った対応ができた。 ・いじめに関する呼びかけを繰り返し伝えることで、いじめの未然防止ができた。	A	・いじめの早期発見・早期解消を目指し、年3回のアンケート活動が立ち、いじめの深刻化を事前に防止することができた。	生徒指導主事(両) 教育相談担当(両)
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」が「どちらかというと感じる」と回答する生徒「90%」以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。	A	・「佐賀のキリシタン」/「西洋美術を愛した佐賀」というテーマについて講演を実施したが、生徒のアンケートによる評価が概ねよい評価であり、多くのよいコメントを数えることができた。	A	・生徒の意見を拾い上げる機会を設定し、より身近な生徒の声を活動に反映することができた。	「さがを誇りに思う」担当(両)
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食をとって登校する生徒「90%」以上を目指す。 ●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・「食育」より年間10回以上発行する。 ・「保健」より年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底する。	A	・2年生対象の「健康に良い食事をしている」生徒が81.1%と前年度より低い数値となった。「食育」より「食育クイズ」/「掲示」で生徒の食への興味関心を促すことができた。 ・各集会ごと「健康等」についての訓話、受償勧告等の注意喚起ができた。	A	・「朝食をとっている生徒」の数は増加したものの、朝食自体の「質」の向上には至らなかった。保護者も含めた「質」の向上につながる啓発活動につなげていきたい。	保健主事(両) 養護教諭(両)
	○健康の保持増進のため体力向上	○健康・体づくり推進プランを実施して、健康保持・増進、体力の向上を目指す。 ○新体力テストで各生徒が「5%の得点UP」につながったため、体づくり運動を毎学期取り入れる。	・新体力テストを実施する。 ・塩田校舎は「85%」、嬉野校舎は「80%」以上の部活動加入率を目指す。	A	・部活動の活動状況は、両校舎で活発に行われており、次年度の活動にも期待できる。しかし、いくつかの部活動で「部員」自体の数が足りず、活動に支障が出るものもある。両校舎での部活動の再編も検討すべき項目と思われる。	A	・部活動の活動状況は、両校舎で活発に行われており、次年度の活動にも期待できる。しかし、いくつかの部活動で「部員」自体の数が足りず、活動に支障が出るものもある。令和5年度の部員募集に期待したい。	体育科主任(両) 生徒会担当(両)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守し、前年度より30分削減する。	・「定時通勤日+1」を設定する。 ・「学校閉庁日」の設定。 ・部活動休業日の設定。	A	・一部ではあったが会議の準備期を取り入れるなど業務の効率化を推進した。また、各部活動における複数顧問による指導の分担を図り、時間外勤務時間を削減できた。 ・時間外在校等時間の上限(1か月につき45時間、1年につき360時間)については全職員が遵守できた。	A	・年々、時間外勤務の時間は減少傾向にあるが、業務の不均等(部活動指導など)は、解消に至っていない。 ・時間外在校時間の上限を超える勤務実績は、過年をとおしてなかった。	副校長(両)
	○学校行事の精選と効率的運営	○講演会等の行事の精選を行う。 ○両校舎で実施する行事の検討を行う。	・合同開催できる行事を「3つ」以上実施する。(開校記念行事、文化祭、3学期クラスマッチなど) ・事前に主担当で行事の打ち合わせを行い、計画的に実施できるように連携する。	A	・両校舎合同の文化祭は両校舎生徒会が主に企画・運営し、主体的に身をついた。文化祭終了後は来年度も合同開催を要望する声が多かった。 ・学校企画会議をとおして来年度年間行事の綿密な打ち合わせができた。	A	・「分校舎制」とする本校が行事等を企画する場合、地理的距離間や生徒移動など解消すべき課題が多くなるが、文化祭はその解消に向けた方策の一つになっている。令和6年度も解決に向けた取り組みが行われることを期待する。	副校長(両)

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路実現100%	○生徒の希望進路への実現	○キャリア教育の充実のための校外研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・学校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。	A	・塩田校舎では「キャリア教育」、嬉野校舎では進路希望別の「インターンシップ」とオープンキャンパスが実施され、将来の進路選択に役立った。	A	・塩田校舎の「キャリア教育」と嬉野校舎の「インターンシップ」は、報告会につながり、下級生の進路選択へのきっかけづくりとなっている。	進路指導主事(両)
○身だしなみ指導とマナーアップ	●社会人として必要な身だしなみ・挨拶の質の向上を図る。	○すべての授業、教育活動で身だしなみ・挨拶指導を実施する。	・登校時の挨拶・身だしなみ指導を毎日行う。 ・授業の前に身だしなみチェックを行う。 ・挨拶指導を推進する。	A	・今年度6月下旬からカジュアルスタイルを導入したところ、生徒はTPOに応じて身だしなみを整えることができた。 ・元気な挨拶をする生徒たちに対して、地域住民からも賞賛の声をいただいた。	A	・「カジュアルスタイル」の導入はおおむね好評である。学校行事に合わせた身だしなみ指導が行われ、生徒への周知・伝達も理解が進んでいる。	生徒指導主事(両)
○校舎制による円滑な学校運営	○両校舎間の連携	○分掌業務や部活動指導で、「連携が取れた」と回答する職員「85%以上」を目指す。	・合同会議やワーキンググループにより、職員間で合意形成・共通理解を図る。 ・学校行事や部活動など両校舎の一体感を醸成する活動を合同で行う。	B	・移行期行事や両校舎間、協働して行うことができた。文化祭を合同で実施し、生徒・保護者・職員とも両校舎との評価であった。今後、学校企画会議を充実させ、さらなる校舎間連携のため、職員の意識改革、両校舎合同の協議、取り組みを実施していく。	B	・学校行事の様々な場面で、両校舎の職員による話し合いが行われ、「一つの学校」として連携・協働していく雰囲気は醸成されている。	副校長(両)
○魅力と活力ある高校づくり	○両校舎の生徒が享受できる教育サービスの均一を図る ○生徒の安心・安全を確保する	○PTA総会の参加率(委任状を含む)が80%以上になるよう取り組む。 ○PTA活動の活性化を図る。 ○メール配信サービスを使い、保護者との連携が迅速にとれるようにする。	・授業参観を含め、学校での活動を広報し、参加を促す。 ・両校舎における活動内容のすり合わせを行い、令和5年度総会での承認・一本化しての実施を目指す。	A	・「e-メッセージ」による学校情報(即時配信)には一定の評価が出ているが、SNSによる情報発信はこれからである。 ・PTA総会(これからも一本化された形式で実施されていくと思われる)が「参加率向上」に向けて、取り組んでもらいたい。	A	・「e-メッセージ」やSNSを活用した情報発信は、各学校での様々な取り組みで実施されているが、次年度以降さらなる情報発信に取り組んでもらいたい。	教務部図書・広報(塩田) 研修広報部(嬉野)
	★◎SAGAスマートラーニング(県指定)に取り組む	○「自分の学校を中学生に勧めることができる」という生徒の割合「78%」、職員の割合「85%」を目指す。	・唯一無二の誇り高い学校として本校の魅力高め、県内外からの志願者を増加させるとともに、社会にとって有為な人材の育成・輩出を目指すことを目的として、地域・企業・大学等と連携し、年間を通して学校の魅力を伝える。	A	・「自分の学校を中学生に勧めることができる」という生徒の目標割合「78%」に対し、回答では「86%以上」が肯定的な意見である。職員の目標割合「85%」についても、「96%」の教職員が肯定的な回答をしている。	A	・数値目標としては、クリアできており、肯定的な回答が目立った。次年度以降も、今以上の数値目標に向かっていきたい。	スマートラーニング担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高い学校づくり	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <p>・学校運営上、「分校舎制」という困難さがあるものの、両校舎共に「差」がない取り組みを行っている。また、職員同士の協働により、良い結果につながっている。 ・塩田校舎における「モノづくり」と嬉野校舎における「ヒトづくり」が融合して、地域に貢献し、有為な人材を輩出する学校であり続けることが大切である。 ・令和6年度に学校に期待される事柄を整理し、地域に信用・信頼され、さらに貢献できる学校を目指す。</p>
---	--